



# 全員で挑んだ全国制覇

首里高等学校 大 城 珠 江 (元知念高等学校 なぎなた部顧問)

2010年8月、全国高等学校総合体育大会が地元沖縄で開催されました。地元の熱く温かい声援を直に感じながらの最高の舞台で、知念高校なぎなた部は27年ぶりとなる悲願の団体優勝を勝ち取ることができました。

平成19年度、私は母校の知念高校で採用となり、同時になぎなた部の指導に携わることになりました。知念高校なぎなた部は創部34年目を迎える伝統校で、過去の実績は輝かしいものばかりです。そのなぎなた部の指導者となった私は、赴任と同時に3年後に控えた美ら島沖縄総体に向けても、責任と不安を強く感じていました。先輩方が積み上げてきた歴史ある知念高校なぎなた部としての誇りを胸に、全国へ挑むための「覚悟」を決めなければと必死でした。私なんかで子供達の指導ができるのかと弱気な自分に支配されないよう、恩師や先輩指導者の先生方へアドバイスやヒントをいただきました。そして、周りの方々の力を借りながら指導法に試行錯誤し、目の前の子供達と「全国制覇」へ向け走り始めたのでした。

美ら島総体を1年後に控えた2009年、沖縄県代表として、九州総体そして全国総体に挑みま した。九州総体では苦戦ながらも初の団体優勝を成し遂げ、その勢いに乗っての全国総体。ここ で弾みをつけて美ら島総体へつなげたいと思っていました。しかし全国での結果は予選敗退。屈 辱を経験した大会となりました。九州総体での団体優勝にどこか舞い上がってしまい、心に隙を つくっていたのが一番の敗因だと思います。監督として、自分の無力さを痛感した大会でした。 子供達と一緒に言葉にならない悔しさと自分たちに対する怒りでいっぱいでした。楽な試合など 決してない、どんな相手にも内容にこだわり、冷静で最後まで諦めない「強い心」がこのチーム には必要だとその時強く思いました。勝つ喜びと負ける悔しさを知った子供達。それから「本気 で日本一を目指す」と美ら島総体までの1年、更なる肉体改造やメンタル強化、技の習得に努め ました。競技力向上はもちろんですが、現代の子供達は環境に恵まれているので、慣れた環境か ら離れた合宿を積極的に行いました。人として「謙虚・感謝」の心を大切に、「チームの絆」を 深め、思いやりある行動ができるようにすることも一つ狙いでした。それから厳しい稽古の毎日 でしたが、誰一人弱音をはく者はなく迎えた2010年美ら島沖縄総体。運命なのか、団体予選は 1年前の全国総体で予選敗退をした時の相手、愛媛県立今治東高校でした。接戦でしたが昨年の 屈辱を果たし予選突破。決勝トーナメントへ進出しました。決勝トーナメントではピンチを迎え る場面が何度かありましたが、攻めの姿勢を貫き勝利を重ね、決勝戦を迎えました。相手は優勝 候補筆頭の熊本県立熊本西高校。大将戦までリードを許し、目が離せない厳しい戦いとなりまし たが、誰一人諦めているものはいませんでした。仲間を信じ、諦めない心がグッと勝利を引き寄 せ、大将を務めた主将の城間が逆転、見事優勝することができました。大会終了後の全力を出し 切った子供たちの満面の笑顔は、今でも強く脳裏に焼き付いています。今思い返しても目頭が熱 くなってきます。今後も夢ある子供たちとの出会いに感謝し、一人間として、一指導者として精 進していく決意です。

今大会を通して、「全国制覇」という高い目標達成の為に、たくさんの方々の応援や協力の有難さを改めて感じました。沖縄県高体連、なぎなた連盟をはじめとした関係者の皆さま、そして応援して下さった多くの方々に心から感謝を申し上げます。

平成26年1月



# 美ら島総体団体優勝への歩み

南部工業高等学校ウエイトリフティング部 監督 屋 良 博 之

2010年夏、全国高等学校総合体育大会「美ら島沖縄総体」が南国沖縄で開催され、南部工業高校ウエイトリフティング部もまさに熱い夏を過ごしました。

県総体、九州大会、インターハイと大会が近づくにつれて、マスコミからの取材も多く受けることになり、県民の注目も浴びながら監督・選手は待ち遠しくもあり、日々プレッシャーとの闘いでもありました。そのような中でも、超高校級の玉寄君、優勝候補筆頭の久米君の二人をはじめとし、平良君、平仲君、新垣君の頼もしい5人の団体メンバーが本来の実力を発揮し、「優勝」という地元の期待も高まる中で17年ぶり3度目の全国制覇をはたすことができました。全国制覇を成し遂げることができたのもたくさんの人からの支援があってのことだと今でも感謝の気持ちでいっぱいです。

また、南部工業高校ウエイトリフティング部では大会100日前残歴板を掲げ、選手の期待感と 緊張感を高める工夫もおこないました。

伝統ある南部工業高等学校ウエイトリフティング部の顧問をして今年で14年になります。赴 任当初、部員が3名しかいないのにはびっくりしました。部を強化する前に部員を獲得しなけれ ばならず、生徒を見れば部員勧誘をする毎日でしたが、思うように部員が集まらず、少数精鋭の チームでしたがそれでも県総体で4連覇、九州総体2連覇と実績をあげてきました。しかし、統 廃合の準備で学級数は毎年減ってそれに伴い入学者数も減り部員獲得がさらに難しい状況になり ました。平成20年度の入学生が「美ら島沖縄総体」の主力メンバーになるのでこの年は例年に なく粘り強い勧誘をしましたがそれでも入部したのは玉寄君、久米君の2名でした。この時点で 「美ら島総体」の団体優勝を断念し、個人優勝に目標を設定変更しました。せっかく県の強化指 定校になったものの該当の選手2名ではなぜか空しい毎日でした。団体で優勝するには最低5名 は必要だからです。毎日、部員が欲しいと念じていたら、その思いが通じたのかその年の夏休み にひょっこり、中学3年生のやせ細った平仲君と重量挙げに不利な肘が伸びないという新垣君が 練習をやりたいと言ってきました。しばらくして平良君も練習に合流しましたが当時とても戦力 になるとは夢にも思っていませんでした。しかし、このようにしてスタートした「美ら島沖縄総 体」団体のメンバーでしたが、練習では"世界レベルで記録を考えなさい"と指導し、生徒が高 い目標を目指し、切磋琢磨したことが飛躍的に記録が伸びた原動力だと私は確信しています。九 州総体では玉寄君が53kg級で日本初の高校生が日本記録を達成するという偉業を成し遂げまし た。生徒の活躍で「美ら島沖縄総体」の団体優勝が絶望から現実になり、教員生活最後の年にし かも地元で団体優勝できよい選手に巡り会えたことに感動しています。

二人の部員から始まったこの団体戦も奇跡的な融合で団体優勝ができ支援してくださったすべての人々に感謝したいと思っています。そしてこれからもますます沖縄県の高校生が高い意識を持って世界に羽ばたき新たな目標である東京オリンピックで活躍することを切に願っています。



## 「全国制覇」

興南高等学校ハンドボール部 監督 黒 島 宣 昭

「吹きわたれ 若人の風 北部九州へ」をスローガンに、平成25年度全国高等学校総合体育大会・高松宮記念杯第64回全日本高等学校ハンドボール選手権大会が佐賀県神埼市を中心に開催されました。4年ぶり5回目の全国制覇に大きな感動と喜びを感じました。

振り返ってみると、3月の全国選抜大会では、ある程度の手応えを感じて大会入りをしたのですが、3回戦で今大会準優勝チームの北陸高校に、29-19の完敗で、この負けは、選手達はもちろんのこと私自身もかなり大きな衝撃を受けました。その後、チーム戦力を改めて見直した結果、全体的にメンタル面が弱いと感じて、特に、その方面の強化を図りながら「全国総体でのリベンジ」を目標に揚げチーム一丸となって練習に撃ち込んできたのが素晴らしい結果につながったと思います。

1回戦、昭和学院(千葉)との対戦。その初戦をどう乗り切っていくかが心配でしたが、前後半とも、自分達のペースで試合運びができ、勝利といういいスタートがきれたと思います。続く、2回戦、3回戦も順調に撃破して4回戦に進みました。今大会の大きなヤマ場であり、相手の不来方高校(岩手)は選抜大会での優勝しており「高さ・スピード・パワー」があるバランスのとれたすばらしいチームです。前半、興南が先取点を取りいい感じでスタートがきれましたが、中盤より攻撃のリズムを崩して、相手に逆速攻や高い打点からのロングシュートなどで得点をゆるして2点差をつけられて折り返しました。後半も流れは変わらず不来方高校の先攻で始まり嫌な雰囲気でありましたが、5分過ぎに相手チームのエースが反則で失格となり、そこから大きく流れが変わりました。4点差で負けていた場面ですが興南のディフェンスが機能して終わってみれば33-24と9点差をつけて逆転勝利をおさめることが出来ました。改めて勝負の怖さを痛感した試合でした。この勝利が大きな自信となり、準決勝藤代紫水高校(茨城)に勝利して、2年連続で決勝戦に駒を進めました。

決勝では、愛知高校(愛知)との対戦。前半、興南ディフェンスが機能して、相手のミスから 得点に結びつけて残り時間5分まで8点リードをしていました。ベンチの思いは、このままいい 流れで後半にいけたらと思ったのですが、ちょっとした気の緩みから相手に連続3失点をゆるし て5点リードでありますが嫌なムードで前半が終了。

後半では、前半の嫌なムードを吹っ切りたい思いがありましたが、愛知高校の猛反撃を止められず徐々に点差が縮まり、残り5分で同点に追いつかれる嫌なゲーム展開でありました。以前ならこのような場面、ずるずると相手の勢いに呑まれて逆転負けを許すパターンでした。が、この大一番で、キャプテン黒島を中心に慌てることなくメンタルトレーニングの成果が出せて、27-26の1点差で逃げ切りの優勝。4年ぶり5回目の胴上げをされて感無量でありました。

また今回は、夢の夢でありました「親子での全国制覇」の達成に一味違って大変に嬉しく思います。 最後になりますが、このような結果を残す事が出来たのも学校関係者各位・県ハンドボール協 会・全国のハンドボール諸先輩方・仲間・選手達のお陰であり、選手を育成され興南高校に預け て下さった小学校・中学校の指導者や保護者の皆様、後援会・OBの皆様のお陰であると深く感 謝していると共に、厚くお礼申し上げます。今後とも「感謝の気持ち」を忘れずに、自惚れず、 謙虚な気持ちを忘れずに、これからも日々努力していきたいと思っています。

#### 特別寄稿



# 共に頑張った9年間

北部農林高等学校 レスリング部 **屋比久** (元浦添工業高等学校 レスリング部顧問)

沖縄県高等学校体育連盟が、創立60周年記念を迎えられましたことを、心よりお喜び申し上げます。

私達レスリング協会は、昭和51年に少ない人数で協会を立ち上げ、昭和53年に県体育協会に加盟、翌年昭和54年に県高体連レスリング専門部に加盟、今年で36年目になります。

その期間、昭和62年に開催された海邦国体に向けて、少年の強化が始まり、念願である夏のインターハイで65kg級松田昌明選手が、県勢初の全国制覇を達成、国体でも優勝者を出すことが出来た。その後、一時高校生の競技力が低迷したが、平成22年に全国高校総体が本県で開催される事が正式に決定、小学4年生~6年生を対象に、平成16年から選手強化事業が始まった。

オリンピックで活躍している選手のほとんどがチビッコレスリング出身で、全国で上位入賞する高校生もチビッコを経験している。そんな現状で美ら島総体を戦えないと不安を感じながら、平成16年にチビッコレスリングを立ち上げ、日本レスリング協会に協力を依頼、講師を招き審判講習会、技術指導を受け第1回少年少女レスリング大会を開催した。6年生1人、4年生3人で全国少年少女レスリング大会にも参加した。その選手たちと本格的に美ら島総体に向けての小・中・高一貫指導が始まった。

最初の頃は、楽しいく飽きさせない指導をしながら競争心、ライバル意識を持たせる事を心掛け、興味を持たせることから始めた。又、レスリングの指導意外にも仲間意識を持たせ、常にコミュニケーションを大事にしてきた。

中学校からは、高校生と毎日練習、県内県外合宿にも参加させ、本格的な指導に入った。初の全中大会に出場した私達は、小6年の部で優勝した与那覇選手を含め全選手が1回戦で敗れ、全国のレベルの高さを思い知らされ帰った事を思い出します。3年生では、与那覇選手が県勢初の全中初優勝、最優秀選手を受賞、更に屋比久、大城、本村が3位入賞し、日中交流大会に初の海外遠征にも参加した。

平成22年度、美ら島総体で団体優勝の期待が掛かった8月、1回戦から準決勝まで圧勝したが、団体優勝20回の実績のある霞ヶ浦高校(茨城県)に6-1で敗れ3位入賞、個人戦では、1年生で優勝の期待が掛かった、84kg級与那覇選手が3位、2年生96kg級の志喜屋選手が決勝で敗れ準優勝した。小・中・高一貫指導で全国上位の力をつけてきたが、優勝までには何かが足りなかった。

平成23年度4月の全日本JOCジュニアオリンピックカップ大会で、63kg級の屋比久選手、 85kg級与那覇選手が優勝、100kg級の宮國選手が準優勝し世界・アジア選手権大会の代表に選ば れ、良いスタートがきれた。8月の北東北総体、今年こそはと臨んだ大会だったが、またしても 準決勝で霞ヶ浦高校に敗れ3位に終わった、2年生84kg級与那覇選手が県勢2人目の優勝、3年 生96kg級の志喜屋選手が決勝で敗れ2年連続の準優勝に終わった。3年生が引退した3月の全国 選抜大会、8月の全国総体、春夏連覇に向けて小学校4年からレスリングを始めた集大成として、 与那覇キャプテンを中心に12月から強化が始まった。週末、毎週金・土・日と学校で合宿し3部 練習、時には朝練習で、400mグラウンドを10周、 9 周、 8 周・・ 1 周と55周22 k mを走ったり、 選手達は苦しい練習にも我慢をしてきた。2月の九州新人大会で優勝し選抜大会のシードを貰い、 全国選抜大会では第1シードで臨んだが、1回戦で60kg級の知念が思わぬ怪我で棄権するアクシ デントがあった、それでも全員が諦めず決勝進出、軽量級の3階級が敗退し後が無くなったが、 66kg級の屋比久から挽回し3対3まで戻した、最後の120kg級の宮國で逆転し県勢初の団体優勝 を達成した。個人戦でも66kg級屋比久、84kg級与那覇が優勝、120kg級宮國が準優勝した。8月 の全国総体では選抜同様、軽量級が破れ、66kg級屋比久から挽回し3対3で迎えたが、宮國で逆 転負けしベスト8、春夏連覇は出来なかったものの、選手達は悔いの無い試合をしてくれた。こ れまで全国優勝の目標に向い、苦しい練習にも我慢をし頑張ってきた選手達に感謝をしたい。



## 沖縄水産高等学校カヌー部全国総体上位結果

沖縄水産高等学校 平 良 祐 喜

平成22年度の沖縄総体で沖水3年の當銘孝仁がカナディアンシングル500Mで優勝したのを矢 先にこれまで毎年優勝者を輩出している沖縄水産高校カヌー部は心技体を鍛えるために日々、早 朝練習と放課後練習の2部練習行っている。早朝練習が強さの秘訣であることは間違いなく「継 続はあたり前」を部訓に掲げ取り組んでいる。指導者としてカヌーも勉強も一生懸命に取り組め るような環境作りを心掛けている。今後さらに強いチームになるためには、より志の高い勝てる 組織になる事、保護者をはじめカヌー関係者の協力体制の確立が必要である。

#### 平成22年度 監督:平良 祐喜

●當銘孝仁 (3年) 種目:カナディアンシングル 500M 優勝 (2分21秒079) 200M決勝 3位 (2分22秒802) 大城海輝 (2年)

500M 決勝 3 位 (50秒517) 200M決勝 4 位 (51秒005)

●當銘孝仁・大城海輝 組 種目:カナディアンペア 500M決勝 2 位 (2分06秒677) 200M決勝 2 位 (47秒917)

#### 平成23年度 監督:平良 祐喜

●大城海輝 (3年) 種目 カナディアンシングル 500M (2分06秒756)、200M (44秒927) 共に優勝

#### 平成24年度 監督:平良 祐喜

- ●大仲雅人(2年)種目:カナディアンシングル 500M決勝4位(2分00秒194)、200M決勝6位(45秒321)
- ●仲宗根脩真・大城就一(2年)種目 カナディアンペア 500M(1分51秒166)、200M(41秒301)共に優勝

#### 平成25年度 監督:平良 祐喜

- ●大仲雅人(3年)種目:カナディアンシングル 200M決勝5位(46秒660)
- ●仲宗根脩真・3海 大城就一(3年)種目 カナディアンペア 500M(2分03秒298)、200M(40秒694)共に優勝
- ●比嘉 宣友 (3年) 種目 カヤックアンシングル 500M決勝7位 (2分01秒250)
- ●仲宗根脩真・大城就一・大仲雅人・末吉集人(3年)種目 カナディアンフォア 500M決勝5位(2分01秒811)、200M優勝(38秒648)